

令和元年度
教育に関する事務の管理及び
執行状況の点検評価報告書

令和3年2月
湯沢町教育委員会

教育に関する事務、事業の点検・評価

保小中一貫教育が本格スタートして4年目を迎え、教育委員会、認定こども園、小学校、中学校の連携を深め、家庭、地域と協働して、保小中の連続性のある教育体制の充実を図りました。

令和元年度における決算額は、児童福祉費 244,042 千円、教育費 317,745 千円となり町決算額に占める割合は 8.0%でした。

児童福祉費の内訳としては子育て総合支援費に 15,256 千円、児童クラブ費に 11,123 千円、認定こども園の運営管理費として 118,031 千円などとなっています。

教育費の内訳としては、学校関係では奨学金等就学奨励費 22,360 千円、小学校・中学校にかかる費用として学園管理費 101,027 千円、学園振興費 18,634 千円、学校給食事業費 78,624 千円となっています。社会教育関係は、公民館費 53,314 千円、うち全国童画展事業費 4,522 千円で、文化財保護費 11,714 千円のうち雪国館の指定管理料として湯沢町観光協会へ 9,500 千円、生涯スポーツ推進費 20,823 千円のうち湯沢町総合型地域スポーツクラブ「ユースポ」へ町の体育事業のため 15,621 千円を支出しています。

1 教育委員会

(1) 教育委員

教育委員会の構成は、教育長、教育長職務代理者、委員 3 名で構成されています。教育長が第一義的な責任者であることと、町長が直接教育長を任命することで任命責任が明確化されています。

教育委員会は定例会議を毎月 1 回開催して教育委員会の各案件の審議をしており、入学式、文化・スポーツ等の各種行事にも積極的に参加しました。

(2) 教育委員会事務局

教育委員会事務局では、教育課、子育て支援課、認定こども園で独自施策・課題の対応を進めました。教育課付けで嘱託管理指導主事 1 名を配置しました。

ア 教育課 学校教育係

教育課学校教育係は、主に小・中学校に関する運営及び施設の維持管理及び奨学金や就学援助等に関する事務を行いました。

係の体制は、年度当初、課長が係長を兼務し、主事 1 名、事務嘱託員 1 名で業務を行いました。10 月中旬から課長兼係長が長期休養し、2 月末で退職しました。部長が係業務を補佐して業務にあたり、3 月から課長と係長を兼務し、1 月か

らは臨時職員1名を雇用して、業務を遂行しました。

イ 教育課 生涯学習係

生涯学習係は、公民館活動や生涯学習の推進、スポーツ振興、文化財保護等の事務を行っており、参事兼係長1名、主任1名、主事1名、事務嘱託員1名で業務を行いました。

ウ 子育て支援課

子育て支援課は、認定こども園、児童クラブ等の事務を行っており、子育て支援関連業務について総合的に対応しています。

10月からの認定こども園等の利用料無償化に伴う業務について年度当初より取り組み、円滑に無償化業務の対応ができました。

課の構成は、課長1名、係長1名、主任保健師1名、主任保育士1名、嘱託社会教育指導員1名、臨時保育士2名と8月から無償化対応臨時事務職員1名で業務を行いました。

エ 認定こども園

認定こども園は、園長1名、副園長1名、指導保育士1名、主任保育士6名、保育士8名、調理員3名と嘱託管理栄養士1名、事務嘱託員1名、臨時保育士17名、臨時調理員3名でこども園の運営に関する業務を行いました。

2 各課・係の点検

(1) 教育課 学校教育係関連

ア 湯沢学園

保小中一貫教育が本格スタートして4年目となり、こども園、小・中学校では園児・児童・生徒と一緒に活動する機会を増やすように取り組みました。合同避難訓練や春秋の8年生との花植え、1年生との年長児交流や2年生との交流、こども園運動会で1.2年生が応援し、児童生徒会主催の「あおぞらまつり」では年長児を招待して開催しました。また、「湯沢っ子絆活動」や三俣伊米神社例祭への3年生参加など地域に積極的に出向き、活動しました。秋桜ハーフマラソンには、ランナーとして約140名の児童生徒、運営・応援ボランティアとして約40名の児童生徒と教職員が参加しました。「教育フェスティバル」では、小学校学習発表会、中学校合唱コンクールを行い、ともに素晴らしい出来栄でありました。体育祭では、熱中症防止対策に取り組みながら、児童生徒が一丸となって競技・応援に熱戦を展開し、観戦者に感動を与えました。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、令和2年2月28日付で文部科学省から臨時休校要請が発出され、これを受けて3月4日から春休みまでの間、小・中学校とも臨時休校としました。中学校卒業式は、3月3日に感染予防対策を徹底し、来賓を5名と大幅に縮小して実施しました。小学校卒業式は3月25日に感染予防対策を徹底し、在校生は出席せず、卒業生と保護者、来賓5名で実施し

ました。また、3月11～13日に予定していた中学校の8年生修学旅行も延期となりました。

イ コミュニティ・スクール

学校運営協議会では、継続して保護者や地域に主旨や内容の周知に取り組みました。「あいさつ運動」では、前年度募集した「あいさつ標語」優秀作5点を加えた6種類のポスターとチラシを作成し、啓発活動に取り組みました。

今まで実施していた教育フェスティバルでの学校運営協議会主催事業は見送り、湯沢町PTA連絡協議会と共催で12月6日に「笹田博昭氏講演会」を湯沢学園で行い、児童生徒は講演に熱心に耳を傾けていました。7月18日に新潟県コミュニティスクール研修会が新井ふれあい会館で実施され、6名が参加しました。

ウ 学力・学習状況

全国学力・学習状況調査等の結果では、学年や領域によって全国平均を超えるものと達しないものがあるほか、全体の児童生徒数が少ないため、年度によるばらつきもあって、学力向上は引き続いての課題です。

学校生活において「自己肯定感」が低いことも統合前からの課題となっていました。改善しつつある状況も見られます。メディアと接する時間を減らして家庭学習の時間を確保し学力の向上につなげていくことと併せて、さらなる改善を図っていきたいと考えています。

エ 体力の状況

体力的には、全国平均を上回るなど概ね良好な結果が得られていますが、学力と同様の年度による変動や種目によるばらつきがみられるため、スクールバス登校の影響も注視しながら学園生活を通し改善を図っていきます。

オ 特別支援教育

小中学校における特別支援が必要な児童生徒の割合が増加傾向にあります。そのため、引き続き小学校に知的障がい3学級、自閉症・情緒障がい1学級、中学校にもそれぞれ1学級の特別支援学級を設置するほか、通級指導教室（言語通級、発達通級）も設置するとともに、介助員・相談員の確保に努めています。また、総合子育て支援センターにおいて、保小中一貫して支援する体制を継続しました。

カ いじめ・不登校状況

いじめは、小学校で4件、中学校で9件の認知が報告され、個別指導や学年集会などで指導し、収束に向かいました。

不登校（病気を除く30日以上欠席）については、小学校で5件、中学校で4件発生し、登校への働きかけを継続しました。

キ マグナ国際交流事業

国際交流事業の姉妹都市生徒受入事業では、生徒10名、引率2名、計12名が7月8日から18日まで湯沢を訪れ、様々な交流や体験をしました。湯沢学園生徒派遣事業では、8年生8名、引率2名の計10名が7月25日から8月7日まで米

国ユタ州マグナにてホームステイ、文化交流等の貴重な体験をしてまいりました。

新型コロナウイルス感染症の影響で、マグナ側と協議した結果、令和 2 年度の交流事業は受入・派遣とも中止することを決定しました。

ク 湯沢町通学路安全推進協議会

委員の選定にあたり、新たに湯沢認定こども園の園長と保護者代表を委員に委嘱しました。5月に滋賀県大津市で保育園児 2 名が亡くなり、保育士を含む 14 名が負傷するという痛ましい交通事故が発生し、認定こども園でも警察、道路管理者と園児が利用する道路の緊急合同点検を実施しました。

(2) 教育課 生涯学習係関連

ア 公民館事業

湯沢町成人式は、新成人 106 名（湯沢中学校卒業生 81 名）のうち 66 名が参加して開催され、新成人実行委員会主催の第 2 部では「湯沢目線 I♥YUZAWA～令和初成人式 with 癖の塊～」をテーマに、両親への感謝、湯沢への思い、今後の進路や考えを発表しました。

また、「湯沢をオペラの町に」をテーマとした笛田博昭ガラコンサートが行われ、公民館ホールが満席となる 380 名の方々が観覧しました。町民などの作品展示や踊り等の披露する場として湯沢町総合文化祭や芸能発表会を実施しました。

イ 公民館講座

継続している講座に加え、新たに「古文書入門」「ハングル」「きもの着付け」「リンパケア」「ハーバリウム」の各講座を実施し、多くの方から参加いただきました。

また、小学生を対象とした「食育講座」「書道講座」「工作教室」「サイエンスショー」を開催し、楽しみながら学ぶ講座として多くの参加がありました。

ウ 図書室の運営

公民館図書室の利用は、年度末で登録者数は 1,719 名で、貸出は 7,715 冊でした。学園図書室は土曜日の一般開放 35 日で、入館者 65 名、貸出 9 冊でした。

魚沼定住自立圏構想による魚沼市との「図書館等の相互利用に関する協定書」を 4 月に取り交わし、すでに協定を締結している南魚沼市に加え、2 市 1 町で相互利用が可能となりました。南魚沼市図書館との相互利用では、湯沢町民の南魚沼市図書館利用は、登録者 410 名、貸出 6,636 冊、南魚沼市民の湯沢町公民館図書室利用は、登録者 43 名、貸出 223 冊でした。魚沼市との相互利用は、登録者、貸出とも実績なしでした。

エ 地区館事業

三国、三俣地区のスポーツ大会、土樽地区の運動会、各地区の文化事業は実施できましたが、多数の参加が見込める神立、湯沢地区の運動会が雨天のため実施できませんでした。各地区館活動を推進し、地域のコミュニティ活動の活性化を図っており、難しい状況が続きますが、継続して推進します。

オ 全国童画展

全国童画展は 24 回を迎え、今回の応募作品 261 点から入賞入選作品 51 点を選出しました。新型コロナウイルス感染症の影響で表彰式は中止しましたが、作品展は、湯沢町公民館、湯沢カルチャーセンター、新潟ふるさと村で開催しました。

新潟県で開催された第 34 回国民文化祭・にいがた 2019 の湯沢町独自事業として現代童画会巡回展を湯沢町公民館で開催し、420 名が鑑賞しました。

カ 文化財保護

新潟県指定文化財「三国街道脇本陣跡池田家」が町へ寄贈され 2 年目を迎え、283 名が来館しました。

雪国館は、指定管理者の湯沢町観光協会が運営しており、様々な企画展、体験事業等を実施して利用者の増加に努めました。しかし、3 月には新型コロナウイルス感染症の影響で来館者が大幅に減少しました。

キ スポーツ振興

スポーツ振興では、総合型地域スポーツクラブ「ユースポ！」に町のスポーツ関係を委託し実施しており、町民スポーツ大会のほかにも各種スポーツ教室を 26 回実施し約 600 名が参加しました。3 月は新型コロナウイルス感染症の影響でこども対象事業は中止としました。

不在であったスキー振興指導員として元五輪選手の方を確保できました。ジュニア選手育成に熱心に取り組んでいただき、今後の選手育成に期待できます。

(3) 子育て支援課関連

ア 放課後児童クラブ

放課後児童クラブは、指定管理者である社会福祉法人湯沢町社会福祉協議会による運営で、預かり時間の拡充や長期休業のみの利用対応などのほか、サービスの充実を図っています。

利用者は昨年度まで年々増加傾向にありましたが、今年度は長期休業のみの利用が大幅な減少となりました。常時利用者は前年度から 2 名増の 47 人、長期休業のみの利用が 18 名減の 16 名となり、合計 63 名となりました。利用者が定員数（40 名）を超過していることから、平成 29 年度に施設面積不足対応のため、交流アリーナ棟からこども園棟の渡り廊下（ホール部）の一部を活用できるように、カーテン設置等を実施し、平成 30 年度にはエアコンを設置して対応しました。引き続き、利用者が定員数を超過することが見込まれることから、放課後児童支援員等の人員の確保や施設面積の確保を検討します。

また、新型コロナウイルス感染症の影響で、臨時休校となった利用児童のため、臨時休校期間は 8 時から 18 時までの対応を実施しました。

イ 総合子育て支援センター

総合子育て支援センター（愛称：JumPla.net（ジャンプラネット））は、専任の保健師と保育士が常駐していることで、相談業務等に迅速に対応できるほか、湯沢学園内にあることで、保育士や教職員との情報共有を図ることができ、支援が必要な園児・児童・生徒とその家庭に的確な支援を行いました。

育児講座、親カフェ、ふれあい広場などの事業を実施して、多くの方から参加していただいています。平成 29 年度から療育発達支援事業として、年長児対象の小学校生活を想定した体験教室の「のびのび教室」を実施し、学校生活に求められる適切な態度を身に付け、緩やかに順応できるよう引き続き実施しました。

3 月は、新型コロナウイルス感染症対策を講じながら事業を実施しました。

ウ 青少年健全育成、学園支援

青少年健全育成事業は、事務局を学園内の地域交流センターに置き、社会教育指導員を配置しています。青少年育成指導員を中心に「あいさつ運動」や各種行事での巡回や啓発活動、社会環境浄化活動などを行いました。

学園支援では、平成 30 年度に湯沢学園支援コーディネーター連絡協議会を立ち上げ、学園支援コーディネーターが主体となり、通学路の見守りや花壇の整備、図書室の整理や環境整備、校舎清掃等の環境美化などの平成 31 年度の活動計画を作成し、計画を基に支援活動を実施しました。

また、地域交流センターが学校と学園ボランティアの橋渡しとなり、書道、ダンス、調理実習などの授業の補助を行いました。また、花植えや草取り等も学園ボランティアの協力で行いました。

(4) 認定こども園関連

ア 湯沢認定こども園

開園 4 年目を迎え、保育士、園児とも環境に慣れてきました。七夕祖父母会、運動会、発表会などの行事では、多くの保護者や祖父母の方々が来場し、園児の元気に動き回る姿をご覧いただきました。園外保育では各地区に園児が出向き、子どもたちの声を地域に届けました。夏は川遊びやプール遊びを行い、年長児は権現様登山に挑戦しました。冬は小雪で雪遊びを十分楽しむことはできませんでしたが、遊戯室で積極的に身体を動かす活動をしました。保護者による「保育参加」では、多くのお父さんお母さんから参加いただきました。開園時から始めた、預かり時間の拡充（7 時 30 分から 19 時まで）、休日保育（年末年始を除く全ての休日）などのサービスも保育士のシフト対応等の協力で実施できており、引き続きサービスの充実に努めます。

3 月は、新型コロナウイルス感染症予防対策を講じながら通常開園を行いました。卒園式は卒園児とその保護者で年少・年中児と来賓は参加なしで実施しまし

た。

入園児数は未満児の入園率が増加しており、今後もこの傾向は続く見込みで、今後の対応について検討します。

令和元年度入園児数（令和2年1月1日現在）

年齢	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	計
人数	15	21	33	52	40	36	197